第２回２０２７年国際園芸博覧会政府出展懇談会　議事要旨

【意義】

・日本は祈る気持ちや神聖さが日常にあり、みどりが生活と結びついてきた。みどりや農、自然をただ愛でる対象としてだけでなく、生活と密接に関わっているという、自然と持ちつ持たれつという感覚が理解できる場になると良い。

・西洋近代や科学技術と東洋的なものの考え方や日本の自然観を共に考えていくことが大切。明治維新後にわが国が富国強兵を進める中で、西南戦争から昭和維新運動に至るまでの西洋近代化への葛藤も忘れてはならない。地球における人類文明をその生物寿命に沿ってできるだけ維持するためには、もはや西洋近代の合理主義、科学万能主義、功利主義のみでは対応できないのでは。今こそ、東洋的価値観や日本人の自然観などが重要。

・コロナや戦争が起きた後で「命の危機」が大きな問題。「みどり」は命と深く関わっており、命を維持していく上で非常に大事な存在。命に直接関わる問題として植物を捉え直すことが必要。

・これまでの政策の取組を総括するとともに、その延長線で何をやるべきかを見せる必要がある。

・歴史や戦争、平和と農業は無縁ではない。先の見えない時代、2027 年に国際園芸博覧会をやるので、何のために開催するのかと言われるかもしれない。今回は、科学技術の先端を見せるという博覧会の歴史の中で、全体が共生して調和する姿、その全体像を見せる初めての絶好の機会になる。

【理念】

・西洋では持続可能性を実現するのに苦労しているが、日本では元々持っている自然観が持続可能に繋がっているということが明示できると良い。

・そもそもの国際園芸博覧会の理念は、２度の大戦を経て、花やみどりで平和な国・地球をつくろうというもの。この理念も捉えながら、政府出展としても発信をしていただきたい。

・焦点を絞る観点で、理念が３つ必要かは疑問。日本の将来像については、「豊かな」や「成熟した」など、具体的に記載する方が良い。

・変化の中にある時は過去にどうだったかを見直すことが重要。まさに今、科学技術などが非常に進展している中で、理念に温故知新が含まれているのは良い。

・水は生命力の源であり、キーワードとして「水」を入れると花、農、水、生命がつながる。

・「鎮守の森」がこんもりとした森になったのは最近。森的な景観で感性的に納得するかもしれないが、研究的な解釈ではそうではない。

【テーマ】

・耕す・創造する（cultivate）というワードがあると良い。

・「みどり」という言葉に新しい概念を付加し日本語として発信することに賛成。「みどり」はぜひ日本語として、日本らしく発信できたら良い。

・「みどり」で表現するのは良いコンセプト。

・Well-being の意を入れて、「みどりとつむぐ明日の暮らしと『幸せ』」あたりでも良い。

・「みどり」を日本の自然観を象徴し、国際社会に発信する概念として使うことは無理がある。概念としては素晴らしいが、「みどり」という言葉では、日本人に対してもなかなか伝わりにくく、薄い印象で伝わってしまう可能性がある。

・日本の自然観という意味では、変わっていく四季や、桜のような儚い自然観がある。例えばコロナの後の社会の再生をみどりの自然の再生に置き換えてみるなど、より力強いメッセージが、テーマやコンセプトから伝わっていくべき。

・後から振り返った時に、その時代が想像できるようなテーマが良い。

・「みどりでつむぐ『豊かな』暮らし」にするなど、日本が考える成熟した豊かな暮らしを提示できるようなテーマが良いのではないか。

・「みどり」を「グリーン」と訳すと少し違う。そのまま日本語として使っても良い言葉。

・「みどり」は元気をもらえるワードであるため、これで良い。

・日本は「みどり」という言葉を昔はあまり使わず、「青」と言っていた。日本文化や日本の自然観と言うなかで、「みどり」とするのは不安がある。

【空間】

・会期に夏が含まれ、暑さ対策が必要。自然の持つ力をいかし、自然の風の気持ち良さや縁側に座って自然の美風や夕暮れの風景を楽しむなど、日本の原風景の里山の中で、自然の気候でどれだけ暑さ対策ができるか、屋外展示とあわせて検討することが重要。

・半屋外にあたる、日本の縁側のようなしつらえが空間のところに取り込めると非常に良い。

・今までの博覧会の展示は、室外が弱く、途端に寂しい空間になる。コロナを経て、室外の価値をもう一度見出すため、ルーフの空間や半屋外含め、室外が非常に重要。

・今のテーマだと大規模な建物は合わない。森に行くと明るさなど様々な濃淡がある。政府出展でも同じような濃淡を表現できればいい。

・日本は庭屋一如で屋内外を一緒に捉える。会場はとても良い里山ゾーンで、大規模なパビリオンは適さない。小規模な建築物や半屋外などに取り組めると良い。

・ロンドン万博では、木を全部屋内に取り入れるような建築があったが、今回はそういった

大型建築ではないと思っている。

・今のテーマ案ではなるほどとならない。基本計画の構成の中にデザインコンセプトという言葉を入れておいてもらいたい。共感を得られるデザインコンセプトで内容を具体化する必要がある。

【展示】

1　展示要素

・例えば、過去と未来の融合で考えた中で、グリーンインフラや歴史的な日本庭園の技術もあり、バーチャルな部分も入れるというニュアンスの「スーパー日本庭園」のような考え方は、外国人には非常に好評。

・「百人一首」は、自然の風景や植物など日本の文化を表現しているものであるため、そのようなイメージがあっても良い。

・気候変動の観点では、日本の環境への関わり方で、例えば打ち水があり、日本的なしつらえとして見せられる。

・現案では、学びと感性が分かれているが、両者が融合した方が日本の良さとして伝わりやすい。例えば農業の分野は学びのニュアンスが強いため、視覚的・感覚的に伝わる要素が必要。いけばな等は感性的であるが、学びの要素として機能や効用を伝えられると良い。

・動物や昆虫も含めて生命として捉え、出展に加えれば植物が生命全体を支えているということも示すことができる。

・経済合理性に載らない農の重要性も、ぜひ発信していただきたい。皆平等に照らす太陽の恵みを受け、在所で作ったものを在所で分かち合うことに意味がある。

・農福連携も発信してほしい。

・政府の情報となると、良い話ばかりが発信される傾向があるが、例えば日本の自給率の実態や植物園の状況など、わが国が先進諸国の中で、そして発展途上国にさえ劣っている部分も発信し、国民の皆さんの覚醒を促すような内容としてほしい。

・南海トラフ地震や首都圏直下型地震なども想定される中で、東日本大震災でも示されたように、都市公園は単なる避難地を提供するだけではなく、復興の拠点や仮設住宅の建設などに大きな役割を果たしている。今後の大災害を前提にした都市公園の防災的な役割も発信してほしい。

・「持続可能」は今や当たり前の言葉。もっと突き刺さる言葉にする必要がある。命や植物をはじめ、微生物、昆虫、動物も含めた大きな循環の中に人間もいると感じられることが重要。

・「well-being」や持続性を、小中学生をターゲットとして伝えるのはなかなか難しい。

・小中学生が分かる言葉といっても、多分大人もついてくる。どういうワーディングで説明していくのかは、議論をする必要がある。

・刺さるものという表現が非常に大事。今の展示案は種類が非常に多い。刺さるものを出すためには、ある程度議論を絞っていく必要がある。
・2027 年の横浜花博発のものを出す必要がある。一つは公園の新しい姿という観点。もう一つは農業の観点。

2　展示手法

・オンラインでつながったその先にリアルがあるという、融合した参加方式を双方向で実現できると良い。そうすれば、学生や遠方の方も参加しやすくなる。

・「どういう人に何を感じてもらいたいのか」をよく考えることが重要。入場者にアンケートを取るなどして、どんなことを感じ取ってもらえれば成功なのか、アウトカムからバックキャストで考え、そのための仕掛けを用意できると良い。

・プロジェクションマッピングなどで、大きな自然観の変化を動画と、空間的な体験で行うことを入り口に、博覧会として伝えたいテーマを伝えていくことができると良い。

・コロナ禍によるデジタルの普及は、国内の学生 1,600 万人がつながる手法を得るなど、大きな時代の転換期となった。未来の農業などをデジタルで感じてもらうことが可能になっている。

・ビジュアル的にただ「日本」を表現するのは危険。日本人は無意識のうちにある種の科学的なシステムというものを構築していたということがはっきりと感じられることが非常に大事。学びの部分で、しっかりと学んでもらうこと、あるいはしっかりと土をいじって体験してもらうことで、上っ面の日本を出すことを避けていく必要がある。

・展示の連関表を作りながら、展示の形として見せられるものと、精神として伝えるだけのもの、プログラムを作って教育のような形でやるもの、と複層で整理すると良い。

【その他】

・管理運営はインクルーシブのような配慮があることが重要。

・文部科学省の初中局と連携して、教育委員会を通じた取組はいくらでもできる。おそらく子どもと学校の先生が一番忙しいので、同時ではなく、それぞれの学校が独自のカリキュラムの中に、適切に振り込む形が良い。

・５年後の進歩を見据えるとすれば、アジャイルに計画を進めていくのが良い。もう少し時間を追いながら、刺さるコンテンツを作ることを見据えないといけない。

・都市と農村が対立しているような書きぶりになっている箇所がある。都市と農村が対立するのではなく、都市と農村、生産と消費が融合する社会が豊かだという構成にすることが重要。

・大阪・関西万博が 2 年先を進んでおり、目的や性格が違っていても、様々なところで比較

される。基本計画の記載にあたり、配慮している点や配慮していない点、独自性の点等については、十分に確認いただきたい。

・民間展示と重複してしまうとつまらないので、お互いに情報共有をすることが重要。

・今回の博覧会では、国民や海外からの旅行者も来る。特定の部署だけでなく、農水省・国交省を上げてやってもらいたい。さらには、放送大学のような各種機関と連携してもらいたい。